

飯島賢二の『恐縮ですが…一言コラム』

第 252 回 あまり読みたくもないが～「僕の日常」

2008. 4. 6

こんな事をコラムに書き、平気で公開してしまうのだから、いささか「自惚れ」が強いに違いない。今回はそんなコラムである。

私の仕事は何なのか？ なんとも一言で答えにくい質問だ。でもたぶん、その主要なことは「人に会う」ことかもしれない。昼間の当社「代表室」、正に行列の出来る…状態である。夜のお座敷が多いのは、単に「酒が好き」だけではないかもしれない。そして私の仕事は、人に会って、元気を与えることであると思っている。

「元気」の中身は色々、会う人によって違う。いい知恵や情報をもらえたから、具体的施策を教授された、キーマンを紹介された、活力をいただいた…等々何のために私と会うか、その目的によって違う。みんな、その目的を達成したいがために、私と会う。

私の存在価値は、その目的に答えることである。つまり私の究極の仕事は、そこにあるとっていい。それを成し遂げるために、私の日常はある。私がそれに回答できなくなった時、私自身はいらぬ、「不要な存在」となるだろう。



だから、人一倍健康に留意し、人の三倍、知識を高め情報を限りなく入手する、そんな日常でなければならないのだ。行列の出来る昼間はとも充電できないので、経常的作業と情報収集は朝方と決めている。いくら呑んで帰っても、早い時は1時半、遅くても朝3時か4時には起きて、キーボードを叩いている。ここから7時までの3、4時間が、私の「^{ほうぎよく} 宝^{とき}玉の時」になる。誰にも邪魔されず、自分だけの時間を持つことは、実に楽しいものである。

昨年夏、生まれて初めて、本気で健康を意識した。^{いちねんほつき} 一念発起、ダイエットに挑戦。体重は8～9 kg減少、ウエストはおおよそ10 cmほど縮まった。これを機会にイメージチェンジ、口髭を生やし、髪型を若作りにしてみた。今は似顔絵(ハ)の如く、まるで別人のように変身した。本人自身、密かにコケティッシュ(小悪魔的)な快感を楽しんでいたが、田舎町のネオン街は…「ケンちゃん、癌だって？若いのにねえ、」…で、うわさ、デマ、風評は、一切気にかけないことに決めた。

6ヶ月で10 kg近い減量は、並大抵のことではない、と思いがちだが、小生いかに今まで余計な事をやっていたか、その余計なことを辞めたに過ぎない。毎日5合呑んでいた日本酒を一切辞めた。豚カツやアジフライ等の油物、豚・牛・鳥の肉類は全く口にしない。もったいないし、申し訳ないが、毎食事を多少残す、たったこれだけを徹底した結果である。運動は相変わらず、見るのもやるのも大嫌い。煙草はロングピースを1日2箱、きちんと真面目に守っている(矛盾?)。だからこの劇的ダイエット術、私以外には参考にならない。

こんな日常を、もう少し継続しようと思っている。せめて、後継者の^{めど}目処がつくまで、中小企業の経営者の責任とは、そんなところかもしれない。